

開成町の農業政策を問う



井上 三史 議員

平成29年11月に北部振興を考える会が実施したアンケート調査によると本町の農業従事者の約半数は70代の高齢者で、10年後には農業に従事することが難しくなる。

問 農業従事者の高齢化、後継者問題にどう取り組むか。

答 農業振興地域においては、地域農業が抱える人と農地の問題解決に向け「人・農地プラン」を作成し、農地の保全を進めている。これは農地所有者や担い手にアンケートやヒアリングを実施し、農地の貸付希望者と借受希望者を明確にし、さらに地域での話し合いを受け、策定するものである。現在岡野・金井島地区は策定済である。今年度は上島・上延沢を含めた農業振興地域全体に拡大し計画策定作業を行っている。

また、農業後継者育成のため、若手農家の組織化を推進している。新規就農者は農業次世代人材投資資金を活用し、最長5年、年間最大150万円の

支援制度がある。

問 分家住宅を可能にする道筋は。

答 北部の農業振興地域の農用地区域は、原則農地転用は認められていない。ただし、農用地区域にしか設置することが困難で、周辺農地の集団化等に支障を及ぼさない場合に限り、例外的に農用地区域を除外し、農業後継者住宅の農地転用ができる。注意点は、農業振興地域の整備に関する法律による農用地区域の除外要件と農地法による農地の転用許可の要件が異なる点がある。

問 農機具の共同化については。

答 高額な農機具の共同化は望ましいが、使用時期が重なるため共同化の移行が難しい。

J Aかながわ西湘で昨年より農業機械の貸し出しを開始しており、今後、事業拡大に向けた取組に期待したい。



高額な農機具

学校図書室の充実と町に図書館をつくる施策を

平成30年10月末現在、文命中学校の図書室蔵書数は6,970冊であるが、学校図書館標準の整備目標数は、一万2,160冊となっている。また、町内には図書館が整備されていない。

問 開成小学校図書管理システムの導入と町民センター図書室の17時以降もPC対応できる施設展開が必要では。

答 利便性の向上については検討したい。

問 町に図書館をつくることは。

答 まずは既存の図書室の整備に努めたい。

問 町民センター図書室・文命中学校も増書が必要である。

例えば、新庁舎が供用開始になれば町民センター内に空き室ができるので、一階を乳幼児向けの図書スペースにしては。
答 一階は保健センターとなっている。それぞれの目的を踏まえながら、町民にとつて、という観点で検討を進めていきたい。
文命中学校の図書環境については改善に努めたい。



前田せつよ 議員

水防災に有効な「まちごとまちごととハザードマップ」の整備を

住民一人ひとりの先行的な防災行動を時系列でまとめ、具体的な避難行動がとれるようにした「マイタイムライン」の構築を国は推奨している。

また「まちごとまちごととハザードマップ」を取り入れ、水防災の訓練を行うことを提案する。

このマップは、町の中で、生活している一人ひとりが日頃から地域の水害の危険予測を実感できるようにするものである。

問 「まちごとまちごととハザードマップ」の整備を。

答 「まちごとまちごととハザードマップ」は、各種の水害に対応し、洪水時に浸水の想定範囲や浸水の深さを主に示すもので、そこに住んでいる方や訪れた人にもわかりやすい表示であると認識している。

現在の電柱巻標識を更新する際に、浸水時にも対応できる内容で設置できるように検討したい。



想定される浸水深の標識

巡回バスの充実とより一層の活用について問う



星野 洋一 議員

平成29年度に本格運用を開始した巡回バスは現在2台体制となり、買い物や病院などへの日常的な移動に不自由を強いられている高齢者の方の移動手段となっている。しかし、目的の乗場が遠い等の問題点や、巡回バスの町民に対する更なる周知が必要と思われる。

問 フリー乗降制、乗り降り自由に出来るような可能性は検討しているのか。

答 2年間の試行期間の後、平成29年に本格運用を実施した。決まった時間で乗り降りできるメリットを感じているので、この形で進めていきたい。

問 各地域の福祉バス・巡回バスを見ていると町運用でも病院に停まっている事例もあるが。

答 事業者の公平性を考えた結果、公共施設に停留所を設置した。公共・公平性を踏まえ、今後研究していきたいと考えている。

開成駅周辺の鳥害対策のさらなる充実

問 以前、駅前の周辺のムクドリ対策を要望し、平成29年8月からタカによる対策をしたが、一部が駅前・民間企業の樹木に移動した。ムクドリ対策は民間企業との話し合いは済んでいるか。

答 店舗の店長と話をしている。ムクドリが来る前に剪定をお願いして進めていきたい。

問 県道720号線の歩道の上及び周辺の電線に、移動したムクドリがかなり多く集まり出している。東京電力へ依頼すると鳥害防止用具を付けてもらえるというが。

答 来年度、状況を見ながら対策をお願いする。

問 ムクドリを里山に誘導していくために超音波を出す機械があるので、検討されたい。

答 特殊波動方式の防除装置を姫路市で使用した事例があり、効果があつたと聞いているので、今後検討したい。



駅前に再度飛来し始めているムクドリ

体験型授業の充実のためには

文部科学省は、2020年度から通常の教科に加えて特別な授業として、児童・生徒が「何を学ぶ」から「何ができるようになるか」の視点を追加し、教員が一方的に教えるのではなく助言をしながら児童や生徒が主体的・能動的に課題を解決する力、アクティブラーニングを身に付けさせることとした。これを機に「開物成務」の精神に則り今こそ教育Ⅱ人づくりの本町の原点に立ち返り取り組んでいくことが大切と考える。

問 教育現場における体験型授業への取り組みの状況は。

答 町内外の店舗・工場・各種施設等の訪問・見学・体験活動を実施し、またあじさい祭りでは小学生や中学生が自主的・自発的な活動をしている。それらの結果について話し合い、教師がどう評価するかが重要である。更に、次年度以降の取り組みに反映し、実施する事が望まれる。

問 教育委員会の評価と改善の取り組み

答 現在、平成31年度からの計画案を策定中である。「教育の振興」の中で「主体的・対話的で深い学び、アクティブラーニングの視点から事業改善を図る」と位置付ける。



下山 千津子 議員



主体的・能動的に問題を解決する力が望まれる